

特233

441

昭和十二年年度

自昭和十二年四月一日
至同十三年三月三十一日

光丘文庫第十三回報告

財團
法人

光丘文庫



始



奉寄進
 此國二言而可其妻種
 中初秋少頃七女集
 右為王下其後列子孫
 吾國任德重其誰
 受王二年正月廿日
 後一頃行不日其後續
 東

社神忌物大社中幣國 狀進寄筆卿信顯島北寶國

著到
 信濃國志又見柳比頭
 市河在東門十郎經馳
 右著到以件
 元弘三年六月七日
 以

氏正光間本 判證狀到着筆公貞義田新寶國

光丘文庫紀要

發行所寄贈本

大正十四年十月十四日 東宮殿下台臨あらせらる

昭和三年九月十七日 朝香宮殿下台臨あらせらる

同 六年八月廿二日 澄宮殿下台臨あらせらる

同 八年六月廿八日 伏見宮殿下台臨あらせらる

同 十二年一月十九日 秩父宮殿下御宿本間氏別荘に於



て本文庫の圖書等を 台覽あら
せらる

同 十一年十月三十日 秩父宮 同妃兩殿下台臨あらせ

らる

大正十二年六月一日 本間光彌氏の寄贈に依り本文庫

を創立す

同十二年十二月廿八日 文部大臣より財団法人設立を許

可せらる

同十四年九月三十日 鐵筋コンクリート社殿造の本館

並に書庫竣功す

同 年十二月十二日 開庫式を行ふ

昭和二年紀 元 節 飽海郡讀書會を附設す

同 年天 長 節 東宮台臨處碑の除幕式を行ふ

同 三年十一月廿三日 大禮記念郷土参考室を附設す

同 年同 月廿五日 莊内博物學會を附設す

同 四年三月十一日 點字讀書會を附設す

同 十年紀 元 節 文部省より選獎狀並に金壹封を

交付せらる



目次

| | |
|--|--|
| <p>第一、事業の状況……………一</p> <p>一、閱覽成績……………一</p> <p>二、附帶事業成績……………一</p> <p>第二、處務の要件……………六</p> <p>一、官廳に關する件……………六</p> <p>二、職員及賛助員の異動……………六</p> <p>三、理事會・監事會・評議員會……………六</p> <p>四、金員物品圖書寄贈……………六</p> <p>五、雜件……………六</p> <p>第三、會計……………一三</p> <p>一、財産目錄……………一三</p> <p>二、昭和十二年度收支決算……………一三</p> <p>三、昭和十三年度收支豫算……………一三</p> | <p>第四、藏書……………二〇</p> <p>一、藏書總數及内譯……………二〇</p> <p>二、寄託圖書……………二〇</p> <p>第五、雜錄……………二一</p> <p>一、卷頭寫眞版説明……………二一</p> <p>二、死亡役員の略歴……………二一</p> <p>三、莊内の國寶及重要美術品目錄……………二一</p> <p>第六、特別縁故者及賛助員……………二四</p> <p>第七、職員……………三〇</p> <p>一、光丘文庫……………三〇</p> <p>二、莊内博物學會……………三〇</p> <p>三、飽海郡讀書會……………三〇</p> <p>四、點字讀書會……………三〇</p> <p>第八、規則……………三六</p> <p>一、光丘文庫寄附行爲……………三六</p> <p>二、優待規程……………三六</p> |
|--|--|

第一、事業の状況

一、閱覽成績

昭和十二年度に於ける圖書の閱覽状況を概説すれば閱覽人員總數十萬八千五百九十九名にして一日平均三百二十五名なり其の閱覽圖書總數十一萬七百一冊にして一日平均三百三十四冊なり、これを前年度に比較すれば閱覽人員に於て二萬九千四十六名、閱覽圖書に於て二萬八千二十九冊の増加なり

昨年七月支那事變勃發以來、我地方よりも相當の出征者ありて多少の讀者を減じたるにも拘はらず却て反對の好成績を擧げ得たるは畢竟時局に有効適切なる圖書を通じて國民總動員の徹底に邁進し、館内閱覽の擴充と館外貸出の普及を獎勵したる結果にして本文庫の欣幸とする所なり

本年度の成績に就きて之を館内閱覽、館外貸出及び盲人巡回文庫の三種に大別すれば左の如し

| 事項 | 日數 | 閱 覽 人 | | | 計 員 | 一日平均 | 冊 閱 覽 數 | |
|--------|--------|--------|-------|-------|---------|-------|---------|-------|
| | | 男 | 女 | 兒 童 | | | 一日平均 | 一日平均 |
| 館内閱覽 | 二九五 | 三四、二四二 | 五、四九〇 | 五、四二二 | 四五、一五四 | 一五三・〇 | 四七、三九一 | 一六〇・六 |
| 館外貸出 | 三六五 | 五七、三三〇 | 一、五六〇 | — | 五八、八九〇 | 一六一・二 | 五八、八九〇 | 一六一・三 |
| 盲人巡回文庫 | 三六五 | 二、五五五 | 一、四六〇 | — | 四、〇一五 | 一一・〇 | 四、四二〇 | 一一・〇 |
| 合 計 | 九四、一二七 | 八、五一〇 | 五、四三三 | — | 一〇八、〇五九 | 三二五・二 | 一〇七、〇〇一 | 三三三・九 |

右閲覧者を綜合して職業別にすれば學生生徒兒童最も多く青年團員之に次ぎ商工農業者、無職業、盲人、官公吏、教員、軍人、記者、宗教家等の順位にして由來振はざりし婦人閱覽も館外貸出を利用し家庭と連絡をとりて漸次讀書力を養ふの機運に向ひつゝあり

圖書の閲覽傾向は年度の始より七月迄の四ヶ月間は前年と大差なかりしが事變の推移に従ひ軍事、國防、産業、經濟、其他國民精神の作興、東亞問題の認識、列國の事情、科學的知識の涵養、職業的實生活の修練、一般生活の改善等非常時に相應はしき讀書の多かりしは喜ぶべき現象なり

聖戰一周年を迎へて更に長期戦に對處すべき銃後の覺悟を新にし一層讀書獎勵と圖書館利用の宣傳に努め、益々内外の施設を強化し、飽まで堅忍持久して以て國運の發展に寄與せんことを期す

二、附帶事業成績

一、大禮郷土參考室

昭和御大禮奉祝記念として同三年十一月本文庫内に附設して以來、主として郷土に關する文書資料を蒐集し美術工

藝品、博物標本等を陳列して年と共に内容の充實を圖り、又一面には本間家を始め地方の篤志者に請ひて陳列品を借受け、時々新陳代謝を行ひ無料を以て一般に公開す、本年度の觀覽者總數五千四百人にして逐年増加の傾向にあり、常に學術の研究、趣味實益の向上に資し以て圖書館事業の補助機關と爲す

二、附屬莊内博物學會

一、本學會の支部

- 三ヶ所
- 酒田飽海支部 (本文庫内) 東田川支部 (莊内農學校内)
- 鶴岡西田川支部 (鶴岡中學校内)
- 二、會員總數 百十六名
- 三、總會 二回

○第十九回總會 (昭和十二年五月十五日於莊内農學校)

一、開會の辭

會長

一、會務並會計報告

白崎幹事

一、各支部本年度事業計畫發表

- 東田川支部 河村幹事、鶴岡支部 齋藤幹事
- 西田川支部 中村幹事、飽海支部 粕谷幹事

一、協議題

一、本會研究錄第三輯刊行の件

各支部を通じ刊行委員七名を委嘱すること

二、本年度は各支部の事業を主とし研究發表を盛ならしむる件 (可決)

三、莊内博物學會研究錄投稿規定に關する件

一部修正の上可決

一、研究發表

- 昆蟲相 (島海田・飽海郡の珍しいもの) 飽海支部 村上 孝之助
- やもりの發生及生態 酒田成成高小學校 杉原 千代太
- やまねの飼育に就いて 西田川支部 渡邊 勝彌
- 其他佛法僧・海綠石・とげえびの標本に就いて西田川支部
- 中村清造、柳澤多八郎、本多六郎諸氏の説明あり
- 午前十時開會、午後五時閉會、出席會員四十四名

○第二十回總會 (昭和十二年十一月十四日於光丘文庫)

會務及び廣橋顧問死亡に就き會長より報告の後、各支部の活動狀況に就き各幹事より詳細なる報告あり

- 酒田 飽海支部 粕谷幹事
- 鶴岡西田川支部 野田幹事 東田川支部 (幹事欠席)
- 本多幹事

一、協議題

一、研究錄第三輯發刊に關する件

委員は各支部の原稿を取纏めること、第三輯は會員

の研究発表を主とし、事變其他の理由により印刷は
明年四五月頃になる見込

二、飽海支部の名稱を酒田飽海支部と改稱の件

可決、追て會員増加の節は酒田飽海の二支部に分割
することを得

一、研究発表

- 鳥海山植物に就いて 酒井新田小學校 富澤 襄
 - 大島行に就いて 鶴岡高等女學校 野田 謙次
 - 樺太植物管見 鶴岡市 村井 貞固
 - 本年採集動物二三に就いて 鶴岡中學校 梅本 八郎
 - (イ)シロウオ、シラウオと共に最上川を溯る
 - (ロ)ウサギコウモリ鳥海山に産す 杉原 千代太
- 午前十時開會、午後三時半閉會、出席會員十八名
- 其他各支部に於て實施したる事業の概要左の如し
- 昭和十二年六月二日 金峯山の植物採集を行ふ (鶴岡支部)
- 同年七月二日 鶴岡市郊外の植物を採集す (同支部)
- 同年八月二十四日 鶴岡市内の川魚類採集會を開く(同支部)

同年十月三日

村井貞固氏を講師として小砂川、吹浦間の植物採集を行ふ、採集地は小砂川より徒歩にて有耶無耶の關趾を通り吹浦に至る沿道に於て講師指導の下に各種の植物を採集し湯の田に到り講師より懇篤なる指導を受く此日會員六名外に酒田中學校生徒七名参加せり(酒田飽海支部)

同十三年二月十八日 鶴岡朝陽第一小學校に於て理科に關する座談會を開く(鶴岡支部)

同年三月三十一日 會員の研究発表を収録せる鶴岡支部研究録第一號を創刊し同支部會員に配布す(鶴岡支部)

一、研究録第三輯刊行委員を左記七氏に囑託す

- 鶴岡西田川支部 梅本 八郎
- 東田川支部 齋藤 宗雄
- 大野 勳
- 河村 正
- 太田 喜八郎
- 粕谷 英治
- 酒田飽海支部 三ヶ尻 誠

三、體育後援

本文庫は大正十四年五月郷社光丘神社例祭奉祝の爲めに
する酒田運動協會創立以來屢々各種優勝旗並に優勝牌を贈
りて後援する所ありしが、本年度第十三回大會は莊内二市
三郡の外最上郡及び秋田縣由利郡の二郡を加へ男女小學校
中等學校、青年團の出場選手實に一千七百餘名に達し其の
盛大なること兩羽隨一と稱せらる

四、文化資料の調査

毎年の例に倣ひて本年度亦豫備調査を行ひ其の目錄を文
部省に提出して調査方を申請せし處、同十二年九月二十八
日國寶保存會委員萩野仲三郎先生は重要美術品等調査委員
本間順治君を帶同して出張、本文庫に於て莊内二市三郡の
資料百十數點を調査せられたるは我が地方文化振興の爲め
感謝に堪へず

五、圖書館事業講習會

昭和十二年七月三日本文庫に於て山形縣中央圖書館並に

山形縣圖書館協會共同主催を以て圖書館事業講習會を開催
す酒田市飽海郡兩支部より受講者三十餘名出席、文庫長開
會の挨拶を述べ左の諸氏講演あり

- 一、地方圖書館經營の實際 田代中央圖書館長 藤立 四郎
- 二、圖書の選定と整理に就いて 太田 司書
- 三、古文書に就いて 寺田三山神社宮司 觀音寺圖書館
- 四、我村の圖書館の現況 阿部 司書
- 五、光丘文庫經營現況の概略 白崎 文庫長

午後一時十五分より四十五分まで文庫長の「郷土の誇り」と題するラヂオ放送を聴取し、田代中央圖書館長閉會の挨拶を述べ午後四時散會す

六、圖書館週間及博物館週間

同十二年十一月一日より七日に至る圖書館週間並に博物館週間は例年の通り文部省後援の下に市内各學校、諸官廳、讀書會、書肆等と提携連絡をとり廣くポスター、ピラを配布し來館者に美麗なる葉を頒つて宣傳に努む、週間中の日程左の如し

午後七時より酒田青年團讀書會
酒田青年團事務理事
本間 與一
同席理事
和 嶋 茂兵衛

一日 (月)
午後七時より鮎海郡讀書會
一九三六年の出處と動き 講者 萩 原 重 逸

二日 (火)
午後九時 明治館拜賀式 (公案参加者)
孫成第一小學校講者
午後一時より童話會 講者 嶋 海 宗 晴

三日 (水)
自午前九時 文部大臣賞得者、酒田市出身
至午後四時 本間壽華氏作品詩繪展覽會

六日 (土)
午前十時より點字讀書會總會と鮎海郡盲人
家族慰安會 (會場十全堂)
講者 白崎 文庫長
佐藤 清治
島海 宗晴
松井 灯水
備知新聞記者

七日 (日)
午前十時より 讀書會
午後四時まで 講者 西田 祐太郎
島海 宗晴

右童話會、映畫會は兩日とも來館者二千餘名、展覽會の
觀覽者二千五百餘名に達し盛況裡に終了せり

七、事變關係者慰問其他

昨年事變勃發以來、本文庫は當酒田市出身の出征軍人並
に傷痍軍人に對し隨時圖書新聞雜誌等を寄贈して深く其の
勞苦を感謝し聊か慰問の意を表せり
戦死者の英靈に對しては華燈と文庫長の悼歌を供へ且會
葬して敬弔の意を捧ぐ

第二、處務の概要

一、官廳に關する件

昭和十二年四月十四日 文部大臣に基本金増額變更に付報告
書を提出す
同 年五月廿九日 文部大臣、山形縣知事及び酒田市長
代理に本文庫昭和十一年度報告書を
提出す
同 年六月五日 本間光正氏より貳百圓の指定寄附あ

二、職員及賛助員の異動

昭和十二年四月一日 酒田中學校長三浦三義氏は米澤市
興讓中學校長に轉任に付評議員辭任
同 年五月廿九日 酒田高等女學校長谷壯藏氏評議員に
當選就任す
同 年六月十日 元酒田市長中里重吉氏東京移住に付
評議員辭任
同 年同月十八日 中里重吉氏を優待規程に依り名譽贊
助員に推薦す
同 年同月廿一日 理事池田藤彌氏辭任
同 年七月五日 莊内博物學會顧問山形高等學校教授
廣橋堯氏死亡
同 年同月卅一日 本文庫役職員にして現職のまゝ應召
出征したるもの左記二名
評議員 松井 庸 知
事務員兼 東根 敏 夫
出納手
同 年十月十四日 酒田市長齋藤巳之吉氏評議員に當選

りたるを以て基本金拾萬貳千七百五
拾圓と増額變更に付酒田區裁判所に
登記す

昭和十二年六月六日 文部大臣に基本金増額變更に付報告
書を提出す

同 年同月十九日 酒田市長代理より昭和十二年度圖書
購入費へ金四百圓交附の旨通牒を受
く

同 年同月廿四日 文部大臣より昭和十二年三月二十七
日附申請、基本財産處分、豫算變更
並經費資金借入の件承認せらる

同 年同月廿五日 理事池田藤彌氏辭任に付酒田區裁判
所に登記す

同 年同月廿六日 文部大臣、山形縣知事に理事池田藤
彌氏辭任の届書を提出す

同 十三年三月廿九日 文部大臣、山形縣知事に明年度經費
收支豫算書及び事業計畫書を提出す

就任す

昭和十二年十月廿二日 東京市大瀧由次郎氏を優待規程に依り賛助員に推薦す

同 十三年一月十五日 塚成第一尋常小學校長阿部廣直氏本縣視學に轉任に付評議員辭任

同 二年二月廿二日 塚成第一尋常小學校長小野寺稔氏評議員に當選就任す

同 年三月廿八日 理事一名缺員中の處評議員會に於て佐藤清治氏理事に當選就任す

酒田市長齋藤巳之吉氏を優待規程に依り名譽賛助員に推薦す

鶴岡市齋藤治兵衛氏を優待規程に依り賛助員に推薦す

三、理事會

七回

昭和十二年五月二十九日、六月二十三日、七月二十八日、十月十四日、十二月十八日、同十三年二月二十一日、三月二十二日

監事會

一回

昭和十二年五月二十九日

評議員會

一回

昭和十三年三月二十八日第十九回評議員會を開く、評議員出席者十二名、委任者十二名、缺席者一名、顧問本間光正、文庫長理事白崎良彌、會計主任理事村田喜造、理事荒木彦助、中村弘、本間元也、監事莊司修理之助の役員諸氏出席、左の事項を舉行せり

白崎議長は議事録署名委員として評議員太田喜八郎、五十嵐大兵衛の兩氏を指名して議事に移る

一、議案

第一號 事業報告

(承認)

第二號 昭和十二年三月三十一日現在財産目録並昭和十一年度經費收支決算承認の件 (承認)

第三會計の部参照

第三號 賛助員推薦の件

(承認)

第二職員及賛助員の異動の部参照

第四號 理事一名補缺選舉の件

満場の希望に依り議長は評議員特別賛助員佐藤清治氏を指名し直ちに新任の承諾を得たり

第五號 寄附金受納の件

(可決)

本間光正氏より昭和十三年度經費へ貳千圓、基本金蓄積費へ貳百圓寄附

第六號 基本金利子取扱方變更の件 (承認)

昨年本文庫の都合に依り利子取扱方を變更せし處、今回再び従前通り復舊す

第七號 本文庫創立滿十五周年記念式舉行の件(可決)

時局に鑑み費用を節約し、左の記念事業を施設すること

- 一、附屬酒田文化協會を設置し、月報を刊行し各種事業を行ひ本文庫を後援す
- 二、酒田聞人録の編纂頒布

第八號 昭和十三年度事業計畫承認の件(承認)

第九號 昭和十三年度經費收支豫算の件(可決)

第三會計の部参照

午後二時四十分開會、同四時閉會

四、金員物品圖書寄贈

各種團體並に篤志者より金員物品及び圖書等の寄贈を受け事業の伸展に裨益する處尠からず、左に芳名を録し厚く感謝の意を表す(敬稱省略)

金員の部

- 一金四百圓 昭和十二年度圖書購入費へ 酒田市
- 一金壹千圓 昭和十二年度經費へ 本間光正
- 一金貳百圓 基本金蓄積費へ 右同人

物品の部

- 端溪雲鶴硯 計三個 佐藤清治
- 一支那製古墨
- 蠟石印材紐鯉魚流水

圖書の部

高松宮家より毎年御出版の圖書を下賜せられ、本年度亦左記の通り下賜せられたるは洵に光榮の至り感激に堪へず

- 好仁親王行實
- 良仁親王行實
- 幸仁親王行實

一部

正仁親王行實

有栖川宮記念 選獎錄 第五輯 一冊
厚生資金 選獎錄 一冊
有栖川宮記念 選獎錄 一覽 一冊
厚生資金 選獎錄 一覽 一冊

國寶市河文書 寫真映入 一帖
大日本史料並大日本古文書 七部
本間 光正

國寶佛頂尊勝陀羅尼經壹卷並 萩野 仲三郎
寄附狀壹通 寫真裝幀箱入

國寶刀劍圖譜 自第一回 映入 十點
伯府鹿島萩鷹 一部
鹿嶋伯府家

雨亭遺墨 映入 一部
奧山 龜藏
朝鮮專賣史 朝鮮總督府專賣 三部
大野 勵

鷹山公偉蹟錄 四部外三冊
甘糟 勇雄

其他官公署、各種團體並に個人の寄贈者左の如し(敬稱省略)

文部省 陸軍省 海軍省
外務省 遞信省 拓務省
特許局 朝鮮總督府 東京市教育局
山形縣 兵庫縣 關東州廳
酒田市役所 中平田村役場 戸澤村役場
山形測候所 酒田支所 酒田郵便局 酒田稅務署
酒田 驛 新潟鐵道局 余目町教育會
東北振興 南滿洲鐵道 株式會社 酒田商工會議所
電力株式會社 近藤記念海事財團 互尊文庫
兵庫縣巡回文庫 臺南市立圖書館 羽黑文庫
函館市立圖書館 日比谷圖書館 宮城縣中央圖書館
早稻田大學圖書館 鶴岡市立圖書館 秋田縣立圖書館
市立小樽圖書館 彰化市立圖書館 新潟縣立圖書館
私立圖書館懇談會 慶應義塾圖書館 金澤文庫
福島縣立圖書館 安田文庫 東洋文庫 成田圖書館
大師圖書館 日本互尊社 大橋圖書館
帝國圖書館 大連圖書館 寶塚文藝圖書館

宮城縣圖書館協會

東京博物學會 東京縣庄内盲學校
東京文理科大学 山形縣庄内盲學校
日本博物館協會 東京農大 同窓會
早稻田大學 東京工業大學 甲蟲同好會
東京農大 農友會昆蟲部 鮎海小學校長會
莊内育英會 酒田中學校學友會 事務所
中外商業新報社 カトリック 中央出版部
兩羽朝日新聞社 東光日々新聞社
山形民報社 莊内春秋社
日本讀書新聞社 寫真報國社
大阪毎日新聞社 東京朝日新聞社
教育新報社 學事新報社
國民工業學院 選舉肅正中央聯盟
東洋硝子新聞社 遞試社
電界情報社 機械新聞社
遊就館 日本藥素
嚴樞會 恩賜財團愛育會
關阿吽阿會 日本エスベ
ラント學會

青森博物研究會

神宮皇學館 日本醫科大學
酒田裁縫女學校 東京帝大醫學部
日本民族衛生協會 鶴岡中學校雜誌部
酒田新聞社 酒田新報社
新庄内社 河北新報社
日蘇通信社 酒田支局
三味線文化譜樂會
大日本淨曲協會 尺貫法存續聯盟
尺貫法存續聯盟 東京鮮満案内所
日滿經濟社 東京鮮満案内所
寶文館 日滿經濟社
聯珠雜誌社

三六社

大連海務協會 光明思想普及會
東京科學博物館 海防義會
中和會本部 永遠の生命社
山形縣教育會 日本のローマ字社
東京電氣株式會社 大日社
汎太平洋 東京堂
平和博覽會 信濃郷土研究會 東京堂
信濃郷土研究會 日本ボルトランドセメント 關西藝術新聞社
同業會 同業會 齋藤報恩會
研究社 骨の木社 カナモジカイ
懸賞俱樂部 明治圖書株式會社 味覺群發行所
小學館 和鳴債券部 珠發行所 山形縣結核豫防會
山形縣統計協會 敬神會本部 大東文化協會
讀書と出版社 都文堂書店洋書部 心交協會
日本衛生會 日本弘道會 今日的課題社
章華社 山形山岳會事務所 鎌田共濟會
國民會館 公民講座部 英語通信社 莊内醫學會事務所

| | | |
|-------------|------------|-------------|
| 山形縣治水山林會 | 興文社 | 隣人社 |
| 三省堂 | 同盟通信社 | 帝國工藝會 |
| 東洋圖書株式會社 | 大日本雄辯會 | 國民精神總動員中央聯盟 |
| 鈴木重胤先生學徳顯揚會 | 酒田日本基督教會 | 反共社 |
| 中平田村青年會 | 八紘社 | 紀元二千六百年奉祝會 |
| 鶴岡公論社 | 養蜂界社 | 酒田針按同志會 |
| 日本本社 | 新更會刊行部 | 大日本雄辯會 |
| 成田山新勝寺 | 大阪繪具藥料同業組合 | 理想社出版部 |
| 佐藤鐵太郎 | 大瀧由次郎 | 山口忠五郎 |
| 本間與一 | 堀莊助 | 田山信郎 |
| 板倉太一郎 | 佐藤雄能 | 梅本八郎 |
| 淺野康則 | 高橋多佳次 | 樹下快淳 |
| 安在久太郎 | 後藤綏 | 小松幸助 |
| ラスビハリボース | 田中伊兵衛 | 萩原重逸 |
| 本間寛治 | 吉野富雄 | 小沼貞助 |
| 大内榮七 | 藤塚熊太郎 | 西田祐太郎 |
| 秋野平藏 | 吉田義信 | 鈴木直二 |
| 小山門作 | 今井正 | 近藤保雄 |

| | | |
|-------|-------|-------|
| 丹治兼三郎 | 伊藤博 | 大淵眞龍 |
| 高木亮 | 江村重雄 | 鮎川義介 |
| 阿部正己 | 相馬愛藏 | 齋藤吉之助 |
| 糸井善太郎 | 佐藤金藏 | 北里蘭 |
| 丹信實 | 後藤長策 | 脇水鐵五郎 |
| 長岡恒喜 | 佐藤清治 | 長谷川尙一 |
| 廣橋しげ子 | 清野鐵臣 | 和田天民子 |
| 遠山正雄 | 反町茂雄 | 小松榮 |
| 小泉信三 | 荒木彦助 | 高橋與三郎 |
| 石上貫之 | 古田良一 | 大場眞藏 |
| 池田龍藏 | 岩本信一郎 | 高橋靜夫 |
| 佐藤彦彌 | 萬代順四郎 | 青木桂次郎 |
| 上野源治郎 | 西村安次郎 | 相馬正巳 |
| 伊東義人 | 伊藤直吉 | 土方鎮雄 |
| 山本貞吉 | 池田龍藏 | 田中清純 |
| 佐藤三郎 | 赤谷孝次郎 | 白崎良彌 |

五、雜件

昭和十二年四月二日 恒例に依り圖書館記念式舉行

同 年五月十九日 文部省圖書監修官各務虎雄氏來庫

同 年六月一日 文庫創立第十五回記念式舉行

同 年六月廿四日 山形縣學務課長佐藤哲氏來庫

同 年七月廿八日 山形縣總務部長熊野周二氏來庫

同 年八月^{自十日}_{至廿日} 東京帝大名譽教授史蹟名勝天然記念物調査委員理學博士脇水鐵五郎氏は安齋山形高等學校教授と共に來酒、翌十一日武田飛嶋村長の先導にて飛嶋に渡り十二日歸酒、文庫長は往復共に中川屋に於て會見す

同 年十月十四日 東宮殿下本文庫 台臨第十三回記念祝賀式舉行

同 年十一月十五日 第十二回報告書を各職員贊助員及び特別關係者に發送す

文部省主催社會教育委員會に出席の

爲め文庫長鶴岡市に出張

昭和十二年十一月廿日 文部省社會教育局藤田忠氏來庫

同 十三年二月十四日 東京陸軍幼年學校教頭諏訪間快亮氏 特に本間家に關する教授資料蒐集の爲め來庫

此他著名の軍人又は大家先生にして參觀せられしもの頗る多きも印刷の都合に依り此に省略す

第三、會計

一、財産目錄 (昭和十三年三月三十一日現在)

一基本金拾萬貳千七百五拾圓也 (本年底増二〇〇圓)

酒田市本立株式會社社債及貸付金 一〇〇、八七五圓

東北興業株式會社五拾株拂込金 六二五圓

東北振興電力株式會社五拾株拂込金 一、二五〇圓

内 金五萬圓 大正十二年六月一日維持基金として本間光彌氏寄附

金貳萬圓 東宮殿下當地に行啓且つ本文庫に
台臨あらせられたる記念として大正十五
年四月十五日日本間光彌氏寄附

金壹萬圓 御大禮奉祝記念として昭和三年十一月十
日本間光彌氏寄附

金壹百圓 昭和五年七月八日賛助員佐藤善兵衛氏指
定寄附

金五拾圓 澄宮殿下光丘文庫 台臨に就き昭和六年
九月五日中里酒田町長より謝狀に添へて
寄附

金壹百圓 昭和七年二月十七日故白崎謙吾氏の遺志
に依り白崎良彌氏寄附

金貳萬圓 昭和八年六月一日光丘文庫創立滿十周年
記念として本間光正氏寄附

金壹百圓 昭和九年十一月三日故理事松浦耕三氏の
遺志に依り松浦浩太郎氏寄附

金貳千圓 自大正十五年度、至昭和十年度十ヶ年間
本文庫經費中より毎年貳百圓宛蓄積した
る總額

金貳百圓 昭和十二年三月三十一日基本金蓄積費へ
本間光正氏寄附

金貳百圓 昭和十三年三月三十一日基本金蓄積費へ
本間光正氏寄附

酒田市下巻町百三十四番地現在
第一番地
一 鐵筋コンクリート造、銅板葺貳階建本館 壹棟
建坪百七拾八坪六合
内六拾五坪壹合壹勺 貳階坪
此評價格金五萬五千九百八拾壹圓 (壹坪二付)
外ニ拾八坪壹合壹勺 下屋坪
此評價格金參千六百六拾貳圓 (壹坪二付)

同所同番地現在
第二番地
一 鐵筋コンクリート造、銅板葺參階建書庫 壹棟
建坪六拾坪
内貳拾坪 貳階坪、 貳拾坪 參階坪
此評價格金壹萬五千圓 (壹坪二付)

一 圖書 四萬六千八百六拾壹冊 (本年度増
一〇二冊)
此評價格金八萬六千五百五拾五圓拾錢也 (本年度増
一、四九〇圓〇八)

一 備品什器 參千五拾六點 (本年度増
四七點)
此評價格金貳萬壹千六百五拾五圓五拾錢也 (本年度増
二七一圓五〇)

合計金貳拾七萬九千七百參圓六拾錢也 (本年度増
一、九六二圓五八)

一、昭和十二年度經費收支決算

收入

豫算金七千五百四拾壹圓七拾七錢也
一金七千六百七拾圓八拾九錢也

收入決算高

支出

豫算金七千五百四拾壹圓七拾七錢也
一金七千六百六拾九圓五拾錢也
差引殘金壹圓參拾九錢也

支出決算高
翌年度ニ繰越

昭和十二年度經費收支決算表

收入

| 科目 | 決算額 | 備考 |
|-------|-------|--------------|
| 基本金利息 | 五、九九一 | 基本金ノ利息及株式配當金 |
| | 七七 | |

| 科目 | 決算額 | 備考 |
|--------|-------|--|
| 補助金 | 四〇〇 | |
| 寄附金 | 一、二〇〇 | 酒田市ヨリ圖書購入費へ補助金 |
| 雑収入 | 六二 | 一、〇〇〇圓 本間光正氏本年度経費へ寄附 二、〇〇〇圓 同氏ヨリ基本金蓄積費トシテ寄附 |
| 前年度繰越金 | 一六 | 莊内博物學會研究録第二輯代金 |
| 合計 | 七、六七〇 | |
| | 八九 | |

支出

| 科目 | 決算額 | 備考 |
|----------|-------|----|
| 神社費 | 二七 | |
| 圖書費 | 一、五一 | |
| 大體郷土参考室費 | 三〇四 | |
| 附帶事業費 | 一二五 | |
| 會議費 | 六二 | |
| 報酬・諸給費 | 三、五〇二 | |
| 旅費 | 一一二 | |
| | 四五 | |

| 科目 | 決算額 | 備考 |
|--------|-------|------------------------|
| 備品費 | 一六九 | |
| 通信運搬費 | 一一〇 | |
| 印刷費 | 二二一 | |
| 消耗品費 | 二八七 | |
| 修繕費 | 九五 | |
| 雑費 | 四二六 | |
| 基本金蓄積費 | 二〇〇 | 本間光正氏指定寄附 |
| 借入金償却 | 四五二 | 舊債壹千圓口ノ殘金四〇〇圓償還、利子トモ完結 |
| 豫備費 | 五〇 | 中里前酒田市長へ贈呈慰勞金 |
| 次年度繰越金 | 一 | 昭和十三年度へ繰越 |
| 合計 | 七、六七〇 | |
| | 八九 | |

三、昭和十三年度経費收支豫算

本年度の歳入出豫算は各總額金七千五百參拾七圓五拾錢にして其細目左の如し

昭和十三年度經費收支豫算表

收入

| 科目 | 豫算額 | 備考 |
|--------|-------|------------------|
| 基本金 | 五、一〇七 | 基本金ヨリ生ズル利子及株式配當金 |
| 補助金 | 四〇〇 | 酒田市ヨリ圖書購入費補助 |
| 寄附金 | 二、〇〇〇 | 本間光正氏ヨリ經費へ寄附 |
| 雜收入 | 二〇〇 | |
| 前年度繰越金 | 一〇〇 | |
| 合計 | 七、五三七 | |

支出

| 科目 | 豫算額 | 備考 |
|-----|-------|-------------------|
| 神社費 | 三〇 | 縣社日枝神社、郷社光丘神社初穂其他 |
| 圖書費 | 一、六〇〇 | 圖書購入及製本費 |

| 科目 | 豫算額 | 備考 |
|------------|-------|--|
| 郷土參考室費 | 三〇〇 | 郷土資料蒐集及陳列費等二五〇圓、莊内博物館會費及研究録刊行費二五〇圓 |
| 附帶事業費 | 二五〇 | 各記念日、圖書館週間、文化資料調査費等一〇〇圓、酒田文化協會費二五〇圓 |
| 會議費 | 八〇 | 報酬、文庫長、會計主任 |
| 報酬・諸給 | 三、四八六 | 諸給、司書、書記各一名、書記補、事務員各一名、出納手、給仕各一名、小使、下足番各一名、宿直、人夫賃其他慰勞賞與金 |
| 旅費 | 二〇〇 | 書庫内ノ書架増設其他 |
| 備品費 | 二〇〇 | 電話使用料、郵税 |
| 通信運搬費 | 一五〇 | 第十三回報告書、要覽、閱覽券、帶出券其他諸用紙印刷費 |
| 印刷費 | 二〇〇 | 電燈料、水道料、石炭木炭筆紙墨等 |
| 消耗品費 | 二五〇 | 各所修繕 |
| 修繕費 | 一〇〇 | 植樹、交際、弔慰、一時借入金利子其他雜費 |
| 雜費 | 三五〇 | 酒田出征軍人ニ圖書新聞等ノ寄贈 |
| 事變關係者慰問費 | 五〇 | 本年六月一日舉行 |
| 創立滿十五周年記念費 | 五〇 | 借入金五〇〇圓ノ内一〇〇圓年賦償還其他利子 |
| 借入金償却費 | 一二五 | 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニ充ツ |
| 豫備費 | 一一六 | |
| 合計 | 七、五三七 | |

第四、藏書

一、藏書總數

四萬六千八百六十一冊

此外未裝幀の圖書約三千冊あるも此に算入せず

| | |
|----------|----------|
| 和漢書 | 四萬六千百十九冊 |
| 洋書 | 三百四十七冊 |
| 點字本(盲人用) | 三百九十五冊 |

内譯

東宮殿下台臨記念圖書 八百五十九冊

東宮殿下台臨滿十周年記念圖書五百七十八冊、松森胤保先生著書百八十九冊を含む

福利館藏書 一千七百五十一冊、大泉坊藏書 一千二百七十七冊

本文庫創立滿十周年記念圖書 九 十 冊、文部省選獎記念圖書 四 十二 冊

戸田則素先生遺書 四百二十九冊

二、寄託圖書 (敬稱省略)

一、野附文書 寄託者 野附勤一郎

一、贈正五位白井矢太夫先生遺書及び遺物 寄託者 白井三郎

一、池田玄齋先生遺書及び遺物 寄託者 池田定祥

第五、雜錄

一、卷頭寫真版説明

國寶北畠顯信卿筆寄進狀

竪 一尺一寸
横 一尺七寸五分

此狀は正平二年秋八月、北畠顯信卿が宇津峰宮守永親王を奉じて羽黒山東麓立谷澤城に據り、足利黨の攻撃を捍き軍威次第に振ひ、陸奥の探題吉良貞家を追撃して奥羽の間に轉戦し大捷を博せられたり、以來郡民卿の威望を仰慕し深く之に歸服せり、同十一年の冬卿は再び兵を田川郡藤嶋に擧げ給ひたるも、敵勢大に加はり惜い哉久しからずして落城したり、此役に於て親王は國難に殉じ給ひ、卿は身を以て遁れ、飽海郡生石村延命寺に潛伏す、同十三年四月遙に足利尊氏の死去を聞き、興復の師を起さんと欲し、八月吹浦口ノ宮大物忌神社に由利郡小石郷乙友村(今之郷)を寄進して奥羽兩國の靜謐を祈願せられたるとききの文書なり

後數年にして吉野に還り、天授六年十一月を以て薨す、年八十四、卿は親房卿の第二子にして顯家卿の弟なり、延元より正平に至るまで二十年間、能く東北の人心を收攬して大に皇運の回復に盡瘁せられたる功烈は日月と光を争ふ所なり、陸奥の諸族反覆常なく事毎に齟齬する所ありしと雖も、出羽の民衆は終始一貫王事に勤勞して大義名分を誤らざるは蓋し卿の鼓舞激勵に依るものにして、實に我が郷土史上に燦然光華を放ち、山河と共に並び存するものと謂ふべし

國寶新田義貞公筆着到狀證判

國寶市河文書
百四十七通之二

本書は新田義貞公が元弘三年護良親王の令旨を奉じて勤王の師を上野に起し、進て大兵を武藏野に破り、勢に乗して鎌

倉を衝き北條氏を亡ぼせり、此役に際し信濃國の豪族市河經助が公の軍營に參陣したるとき、公は延元三年七月二日足利高經の大軍と越前藤嶋に戦ひ、流矢に中り自ら免れざるを知り、刃を刎ねて死す、年三十八。是より先、公は建武元年二月國宣を出羽羽黒山に出し、明德四年四月公の第三子義宗其の一族郎黨を率ゐて羽黒山より山伏の姿に變裝し、伊豫の得能河野を頼りて發足したる等の史實に徴すれば、公は顯信卿と符節を合せたるが如く、羽黒山に歸依厚く我が郷土に因縁の深かりしを知るべし（歴史公論 七卷五號）

公は上野新田郡の人、源義家十世の孫なり、父子皆王事に勤勞し終始一貫忠孝の大節を全うせられたるは實に萬古の龜鑑となすべし、今や時局重大の秋、茲に忠勇義烈なる公の六百年を迎へ其の一味與黨の會同證判を觀て追慕欽仰の情轉々切なるものあり

二、役員死亡者略歴

莊内博物學會顧問故廣橋堯先生略歴

廣橋堯先生は明治二十七年九月、新潟縣佐渡郡小木町に生る、大正九年七月第四高等學校を経て東京帝國大學に入り理學部植物學科を修め十二年六月山形高等學校教授に任じ、昭和六年三月高等官三等に陞叙し、次て從五位勳六等に敘せらる、同十二年七月病て卒す、享年四十四、病革まるや三級俸下賜、特旨を以て正五位に陞叙せらる、顧ふに先生就任以來勤績十五年功績顯著なり、其間昭和六年十一月我が莊内博物學會の顧問に推薦せられ、常に會員の指導啓發に盡力せらる、同六年夏學會主催の飛嶋博物講習會講師として顧問牧野富太郎博士、安齋教授と共に渡嶋し、海産物の講習に從事す、同十一年夏再び飛嶋粟生嶋の海藻を採集し、其性質及び機能を究めて同學會發行の博物研究録第一、二の兩輯に論文を載せ學界に貢獻する所甚大なり、同十二年三月二十七日、突如來港して白崎文庫長に電話ありたれば文庫長乃ち

其の旅館中川屋を訪ひて會見す、先生曰く從來は夏季の海藻を研究せしが、今回始めて春季の海藻を研究し、兩嶋を對照して第三輯に之を發表せんと欲すと、文庫長其の篤志に感じ深く期待する所あり、先生翌日飛嶋に渡る、生憎日本海一帯は風雨大に起り雲霧山立せる爲め久しく同嶋に滞留す、歸形後端なく感冒に罹り中耳炎を併發し再度手術の効もななく忽焉として不歸の客となりしは、實に驚歎の至にして母校の爲めにも本學會の爲めにも痛惜措く能はざる所なり

三、莊内國寶及重要美術品目録 (第貳輯)

我が莊内地方に於ける文部省指定の國寶及び重要美術品は第十二回報告書に記載せり其後追加の分を左に收録す

○重要美術品之部

| 認定年月 | 品名 | 點數 | 所有者 | 住所 |
|----------|----|----|--|---------|
| 昭和十二年十二月 | 手鑑 | 一帖 | 久村金藏 | 酒田市 |
| | | | 中ニ大聖武(孝能以身)後鳥羽天皇御詔切(仗信成)後土御門天皇宸翰御短冊(庭松) | |
| | | | 後柏原天皇宸翰御短冊(橋)後奈良天皇宸翰御詠草切(狩場風)後奈良天皇宸翰御短冊(寄月別戀)正親町天皇宸翰御短冊(夏草)陽光院御筆御短冊(菘風)後陽成天皇宸翰御詠草切(寄菘戀)後崇光院宸翰物語切(さる處に)今城切(ながめをかくて)日野切(ひさしう)傳後賴筆古今集切(たねしあはは)多賀切(暗天之聽)アリ | |
| 全年全年 | 太刀 | 一口 | 菅 | 國太郎 鶴岡市 |
| 全年全年 | 刀 | 一口 | 菅 | 實同 |
| | | | 無銘菅江 | |

第六、特別緣故者及贊助員

(昭和十三年三月三十一日現在)
(敬稱省略)

| | | |
|-------|-------|-----|
| 特別緣故者 | 本間光正 | 酒田市 |
| 名譽贊助員 | 酒井良 | 鶴岡市 |
| | 上杉憲章 | 東京市 |
| | 大原重明 | 東京市 |
| | 酒井忠康 | 東京市 |
| | 佐藤鐵太郎 | 東京市 |
| | 國府種徳 | 東京市 |
| | 角南隆 | 東京市 |
| | 荒木彦助 | 東京市 |
| | 太田政弘 | 東京市 |
| | 森本泉 | 東京市 |
| | 熊谷直太 | 東京市 |
| | 萩野仲三郎 | 東京市 |
| | 三浦新七 | 山形市 |

| | | |
|-------|--------|-----|
| 名譽贊助員 | 添田敬一郎 | 東京市 |
| | 三矢宮松 | 東京市 |
| | 山田玄太郎 | 札幌市 |
| | 中山重吉 | 東京市 |
| | 齋藤巳之吉 | 酒田市 |
| 特別贊助員 | 佐藤清治 | 酒田市 |
| | 小山太吉 | 酒田市 |
| | 池田藤彌 | 酒田市 |
| | 村田與治兵衛 | 酒田市 |
| | 風間幸右衛門 | 鶴岡市 |
| 贊助員 | 出羽銀行 | 酒田市 |
| | 本間敬治 | 酒田市 |
| | 本間元也 | 酒田市 |
| | 本間鐵之助 | 酒田市 |
| 名譽贊助員 | 酒田市長 | 酒田市 |
| | 齋藤巳之吉 | 酒田市 |
| | 中山重吉 | 東京市 |
| | 山田玄太郎 | 札幌市 |
| | 中山重吉 | 東京市 |
| | 齋藤巳之吉 | 酒田市 |
| | 佐藤清治 | 酒田市 |
| | 小山太吉 | 酒田市 |
| | 池田藤彌 | 酒田市 |
| | 村田與治兵衛 | 酒田市 |
| | 風間幸右衛門 | 鶴岡市 |
| 特別緣故者 | 酒井忠康 | 東京市 |
| | 上杉憲章 | 東京市 |
| | 大原重明 | 東京市 |
| | 酒井忠康 | 東京市 |
| | 佐藤鐵太郎 | 東京市 |
| | 國府種徳 | 東京市 |
| | 角南隆 | 東京市 |
| | 荒木彦助 | 東京市 |
| | 太田政弘 | 東京市 |
| | 森本泉 | 東京市 |
| | 熊谷直太 | 東京市 |
| | 萩野仲三郎 | 東京市 |
| | 三浦新七 | 山形市 |

大谷 孫七
 酒田木材株式會社
 荒木 幸吉
 櫻井 菅吉
 松井 庸知
 菊池 秀言
 大平 祐次
 高山 長一郎
 山田 與太郎
 荒木 誠一
 佐藤 公太郎
 青島 嘉左衛門
 佐藤 久吉

五十嵐 傳之丞
 白崎 良彌
 阿部 久作
 淺野 康則
 橋野 孝三
 上野 源治郎
 西田 祐太郎
 小松 彌六
 佐藤 公太郎
 市原 平三郎
 竹內 丑松
 若林 安松
 加藤 政之助
 五十嵐 みねを
 須藤 德之助
 中村 太助
 日賢 傳兵衛
 橋本 造酒彌

青塚 恒治
 荒木 彦治
 越島 三郎治
 久村 慶作
 秋野 平藏
 松浦 浩太郎
 遠藤 宗義

飽海郡

藤井 伊一
 土門 次郎兵衛
 三村 啓之助
 太田 宣賢
 菅原 彌右衛門
 本間 光勇
 松澤 與喜雄
 佐藤 久太郎
 菅原 彌右衛門
 佐々木 米藏
 白旗 元六
 佐藤 三郎
 本間 敏之
 本間 元次
 本間 與市
 小松 八十助

東田川郡

渡部 治左衛門
 鈴木 新助
 上野 太右衛門
 藤井 名右衛門

西田川郡

藤原 宇平
 高梨 林太
 足達 伊助
 遠藤 孫右衛門
 高橋 貞太郎
 乙坂 金藏
 佐藤 彌惣太
 熊谷 丹治
 加藤 康吉
 鈴木 仁助
 佐野 辰藏
 佐藤 與惣右衛門
 佐藤 壯太郎
 加藤 彦右衛門
 乙坂 豊治
 佐藤 金吾
 佐藤 市左衛門

齋藤 金吾
 工藤 彦右衛門
 大瀧 多郎左衛門

鶴岡市

梅本 八郎
 伊藤 又一郎
 松森 昌胤
 齋藤 治兵衛

山形市

長谷川 吉内
 小松 治郎兵衛
 戸田 誠意
 田中英男
 福島 良助
 佐藤 利兵衛

米澤市

椿 官太郎
 戸田 虎雄
 戸田 虎雄
 二馬 盛次郎

神社町岡松柳會長

東置賜郡

奥山源太郎 長谷川五三郎 石黒七三郎 新藤幸三郎

西置賜郡

川崎八郎右衛門 竹田清五郎 竹田嘉兵衛

東村山郡

押野源吉

東京市

大日本人造肥料株式会社 石渡幸之輔 山崎繁次郎 木村徳兵衛
平野肥料株式会社 小倉敏藏 小西安兵衛商店肥料部 森六商店東京支店
東京菱三商店 日清製油株式会社 國分剛二 本間順治
池田龜三郎 大瀧由次郎

大阪市

高島克己 武齋洋行

其他

名古屋市 野村貞子 奈良市 菅原安男 神戸市 武井商店 大坂市 松岡歸豊
岡山市 坂上文三郎 廣島市 久村清太 長野縣 石田恭吾 播磨別府港 多木製肥所 代表者 多木桑次郎
秋田縣 株式會社本莊倉庫 取締役 齋藤久助 瀧川國新醫院地水局 坂田昌亮

莊内博物學會賛助員

酒田・飽海支部

太田喜八郎 五十嵐善作 小石尙美 今野喜平治
園部喜助 若木吉久 秋保親喜 長南多郎助
大内榮七 中山賢士 佐藤泉 谷壯藏
東田川支部
大野 勸 齋藤 鎌吉 阿部 朋七 海東宣太郎
本間 繁吉 田口 三郎

評議員

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

小 山 太 吉 酒 田 市

今 野 喜 平 治 同

荒 木 幸 吉 同

齋 藤 巳 之 吉 同

菊 池 秀 言 同

木 村 六 郎 同

三 矢 正 敏 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

酒 田 米 穀 取 引 所 理 事 同

書記補

囑託

外に事務員兼出納手二名、出納手一名、使丁、下足番各一名を置く

石川 武 酒田 市

甲崎 咸 一 同

二、附屬莊内博物學會

顧問

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

東京帝國大學理學部講師 牧野 富太郎 東京市

東京帝國大學理學部教授 田中 茂穂 同

東京帝國大學理學部教授 岡田 彌一 同

東京帝國大學理學部教授 岡田 彌一 同

東京帝國大學理學部教授 岡田 彌一 同

東京帝國大學理學部教授 岡田 彌一 同

東京帝國大學理學部教授 岡田 彌一 同

東京帝國大學理學部教授 岡田 彌一 同

東京帝國大學理學部教授 岡田 彌一 同

東京帝國大學理學部教授 岡田 彌一 同

東京帝國大學理學部教授 岡田 彌一 同

東京帝國大學理學部教授 岡田 彌一 同

東京帝國大學理學部教授 岡田 彌一 同

東京帝國大學理學部教授 岡田 彌一 同

東京帝國大學理學部教授 岡田 彌一 同

東京帝國大學理學部教授 岡田 彌一 同

東京帝國大學理學部教授 岡田 彌一 同

東京帝國大學理學部教授 岡田 彌一 同

東京帝國大學理學部教授 岡田 彌一 同

東京帝國大學理學部教授 岡田 彌一 同

東京帝國大學理學部教授 岡田 彌一 同

第八、規則

一、光丘文庫寄附行爲 (昭和十一年五月二十七日改正)

第一章 目的

第一條 本文庫ハ光丘神社祭神ノ遺志ヲ承ケ有益ナル圖書ヲ蒐集シテ公衆ノ閱覽ニ供シ以テ學術ノ研修國運ノ發展ニ資シ併テ神徳ヲ顯彰スルヲ目的トス

第二條 本文庫ハ前條ノ目的ヲ達成センカ爲メ光丘文庫ノ設置維持及其他ノ事業ヲ行フ

第二章 名稱

第三條 本文庫ハ財團法人光丘文庫ト稱ス

第三章 事務所

第四條 本文庫ノ事務所ハ山形縣酒田市下臺町百三十四番地ニ置ク

第四章 資産

第五條 寄附行爲當初ノ基本金ハ之ヲ基本財産トス
本文庫ノ資産ハ評議員會ノ決議シタル方法ニ依リ文庫

長之ヲ管理ス

第六條 本文庫ノ目的ヲ賛成シテ有志者ヨリ寄附シタル財産ハ之ヲ基本財産ニ編入ス但シ用途ヲ指定シタルモノハ其指定ニ依ル

第七條 基本財産ハ之ヲ消費スルコトヲ得ス

第八條 經費ノ收入及支出ハ毎事業年度豫算ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 經費ハ基本財産ヨリ生スル收益及其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第五章 役員

第十條 本文庫ニ左ノ役員ヲ置ク

一、理事 五名以上七名以内

一、監事 二名以内

一、評議員 二十五名以内

第十一條 理事及監事ハ評議員會ニ於テ之ヲ選定シ評議員ハ理事會ニ於テ之ヲ選定ス

理事ハ評議員ヲ兼ヌルコトヲ得

第十二條 理事監事ノ任期ハ五ヶ年評議員ハ三ヶ年トシ補缺トシテ就任シタル者ハ前任者ノ殘期間ヲ以テ任期トス但シ任期終了後ト雖モ新ニ選任セラレタル者ノ就任迄其任ニ當ルモノトス

第十三條 理事ノ互選ニ依リ文庫長常務理事會計主任各一名ヲ選定ス

文庫長ハ本文庫ヲ代表シ事務ヲ總理シ會議ノ議長ト爲ル

常務理事ハ文庫長ヲ輔ケ庶務ヲ掌理シ文庫長事故アルトキハ之ヲ代理ス

會計主任ハ金錢ノ出納ニ關スル事務ヲ擔任ス

第十四條 本文庫ニ顧問若干名ヲ置クコトヲ得

顧問ハ理事會ノ決議ニ依リ文庫長之ヲ囑託ス

第十五條 理事會ハ事務ノ施行及事業ノ經營上必要ト認ムル事項ニ關シ別ニ規則ヲ定ムルコトヲ得

第十六條 文庫長ハ司書及書記ヲ任用ス
文庫長ハ必要ニ應シ臨時委員ヲ囑託スルコトヲ得

第六章 評議員會

第十七條 評議員會ハ毎年一回文庫長之ヲ召集ス但シ文庫長ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ評議員三分ノ一以上若クハ監事ノ請求アルトキハ臨時ニ之ヲ開クモノトス

第十八條 理事及監事ハ評議員會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第十九條 評議員會ノ議事ハ出席評議員ノ過半数ニ依リテ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スルトコロニ依ル

前項ノ決議ハ評議員定數ノ三分ノ一以上ノ出席アルニアラサレハ行フコトヲ得ス

第二十條 評議員會ハ左ノ事項ヲ議決ス

一、經費ノ豫算及決算

二、事業報告ノ承認

三、其他文庫長ヨリ附議セラレタル事項

第七章 事業年度

第二十一條 本文庫ノ事業年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第八章 寄附行爲ノ變更

第二十二條 本文庫ノ目的ヲ變更セサル範圍内ニ於テ必要アルトキハ評議員三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ議決シ主務官廳ノ認可ヲ得テ變更スルコトヲ得

附 則

第二十三條 本文庫設立ノ際ハ寄附行爲設立代表者ニ於テ理事監事及評議員ヲ指名スルモノトス但シ理事ノ内一名ハ寄附行爲設立代表者之ニ加ハルモノトス

383
607

前項ノ理事及監事ノ任期ハ法人設立許可ノ日ヨリ起算
スルモノトス

二、優待規程 (昭和十一年三月十六日改正)

- 第一條** 本文庫寄贈者ハ特別縁故者トシテ永代之ヲ優待ス
- 第二條** 本文庫ノ創立及經營ニ援助ヲ與ヘラレタル特志者
ヲ本規程ニ依リ優待シ所定ノ優待券ヲ贈呈ス
- 第三條** 本文庫又ハ郷社光丘神社ノ爲メ功勞顯著ナル者及
金員物件ヲ寄附シタル者ハ左記各項ニ基キ評議員會ノ
決議ヲ經テ賛助員ニ推薦シ之ヲ優待ス但シ本條該當者
ニシテ組合又ハ團體ナルトキハ其ノ代表者ヲ推薦ス
- 一、名譽賛助員、特殊功勞者若ハ學識名望アリテ本文
庫ノ事業ヲ翼賛シタル者
- 二、特別賛助員、金壹千圓以上若ハ之ニ相當スル物件
ヲ寄附シタル者
- 三、賛助員、功勞者及一時ニ金壹百圓以上若ハ之
ニ相當スル物件ヲ寄附シタル者

第四條 前條以外ノ左記該當者ハ任期中第三條第三項ニ準
ジ之ト同等ノ待遇ヲナス

- 一、本文庫理事、監事、評議員、委員及附帶施設ノ幹
部
- 二、酒田市鎮座縣社日枝神社、郷社光丘神社ノ社司、
社掌、氏子總代人、崇敬者總代人
- 第五條** 特別賛助員又ハ賛助員ニシテ死亡シタルトキハ評
議員會ノ決議ヲ經テ其ノ嗣子ヲ賛助員ニ推薦スルコト
アルベシ
- 第六條** 優待券所持者ニハ別ニ定ムル所ノ規則ニ依リ特ニ
優遇スル外本文庫報告書ヲ贈呈スベシ
- 第七條** 優待券ハ他人ニ讓與又ハ貸付スルコトヲ得ズ
- 第八條** 優待券所持者ニシテ本文庫ノ名譽ヲ毀損シ若ハ不
正ノ行爲アリト認めタルトキハ評議員會ノ決議ヲ經テ
待遇ヲ停止シ若ハ取消スコトアルベシ

附 則

本規程ハ開庫ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年十月十日印刷
昭和十三年十月十四日發行

(非賣品)

編輯兼 白 崎 良 彌
發行所 酒田市下桑町

印刷者 小 松 幸 吉
酒田市本町七丁目

印刷所 小 松 活 版 所
酒田市本町七丁目

發行所 財團法人 光 丘 文 庫

酒田市下桑町
電話五五一番

終

